（別紙4）　　令和　4　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4190700163		
法人名	社会医療法人　祐愛会		
事業所名	グループホームゆうあい　3丁目		
所在地	佐賀県鹿島市大字高津原2962-1		
自己評価作成日	令和4年12月28日	評価結果市町村受理日	令和5年5月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人　佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	令和5年3月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

法人基本方針にある「Aging in Place」住み慣れた地域で自分らしく最後まで実現を目指し、入居者が自由に、その人らしい生活が続けられるよう一人ひとりの笑顔を大切に支援しています。又、最後の看取りまで積極的に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

住宅街から少し離れた静かな場所に同法人からなる複数の施設と並んで建っている。散歩の楽しめる庭園があり、採光や風通しを工夫された生活の場となっている。法人内の病院、同敷地内の他施設との介護、医療に関して夜間でも相談や対応がし易い連携体制がある。入居者と職員は同市内や隣接地域からで、ホームは地域との交流を積極的にとる姿勢があり、地域に根ざした施設である。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務室や玄関などにケア理念を掲示しいつでも目に入るようにしている。 現在、コロナ禍にて、地域の方との交流ができておらず、新型コロナ感染症が終息したら実践していく。	理念は法人の理念を共通の理念として掲げ、誰もが目に触れ易い玄関に掲示してある。月１回の職員会議や年２回のスタッフの個人面談で理念にもとづいた業務の振り返りがなされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に地域の区長や民生員に参加してもらっている。コロナ禍でも開催できるようオンライン開催を計画したが、区長、民生員の方々にとっては環境、操作が難しく紙面報告が多かった。 以前は、近隣地域のお祭り参加や地域の消防団との防災訓練での交流など行ったり、ゆうあいフェアや秋祭りなどを開始し家族や地域の方と交流する機会を設けていたが、現在は新型コロナ感染対策のため実施できていない。	以前は地域の認知症研修の講師に職員を派遣したり、地区の祭りを見物にまたスタッフとしても参加し、分校との交流も活発に行っていた。防災訓練に消防団の参加してもらうなど地域とは協力体制もできていたが、コロナ禍のため疎遠にならざるを得なかった。今年の５月以降に改めて交流できるよう予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で地区の代表者については理解を求めており、認知症サポーター養成講座を開催するなどして、少しずつ地域の方に向けた活動ができていたが、新型コロナ感染対策のため実施できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの行事や取り組みを報告し、頂いた意見を検討し実践している。現在は、新型コロナ感染対策のため、紙面で各委員へ報告し、内容を確認してもらい質問や意見があれば連絡をもらうようにしている。	コロナ禍のなか、オンラインでの開催を検討したが難しく、書面での開催になっている。写真を多く使って理解し易いように工夫し、意見や感想を電話を使い確認している。参加できなかった家族にも定期のお便りの中で報告をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議開催のお知らせや報告書を直接市の職員に手渡しに行き、顔を合わせる機会を持っている。	市には、相談に伺うことが多く、話易い関係が出来ている。また、研修の案内をもらうこともあるが、講師の派遣を依頼されることもある。法人には鹿島にわか「ゆうあい一座」があり、ホームのスタッフも参加している。地区や病院、学校で医療、福祉、防犯などの啓発活動の一躍を担っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会へ出席し、定期的に勉強会を行い、身体拘束廃止マニュアルに沿って身体拘束ゼロに取り組んでいる。 又、部署内で月一回カンファレンスを行い、状態確認等を検討している。 玄関の施錠はしていない。	現在対象者は現時点ではいない。センサーマットも身体拘束にあたるとして法人内では認識している。勉強会も行われ、「眠りスキャン」の導入などで身体拘束のない介護のあり方を検討している。	センサーマットも含めた身体拘束のない介護へをこれからも取り組まれることに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についての研修会を定期的におこない、ポスターを掲示したりマニュアルに沿って高齢者虐待防止に努めている。 スピーチロックゼロの取り組みを法人全体で取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を実施している。必要があれば家族へ情報提供を行い活用できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面に添って説明を十分に行い、疑問点を尋ね、理解を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やサービス担当者会議などの際に、家族の意見や不満などをゆっくり聴ける機会をもうけている。玄関に意見箱を設置している。	コロナ禍以前は居室を使っていたが、現在は玄関での面会時に家族とスタッフとの話し合いの場を持つようにしている。話易い雰囲気を作り、意見を言ってもらえるよう努めている。	普段の生活や姿、居室内の様子、ホーム内の装飾など日常生活の様子をタブレットや写真を活用し、入居者の生活の様子がより一層家族に伝わるような取り組みを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、相談会を開催しており意見交換している。また、個人面談の機会を設け意見を聴いている。	毎月、相談会（職員会議）を開催し、業務用SNSであらかじめ内容を発信し、一人ひとりに意見を求めている。移動用リフトのネットを職員の提案で追加購入した事例がある。管理者は職員が話しやすい雰囲気作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ほぼ残業はない。有休休暇取得日数が増えている。半期毎に個人目標を設定し努力を評価し、就業内容などを総合的に評価している。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数や希望により法人内コース研修を実施したり、全職員対象の研修会を行ったり、法人外研修への参加を促し内容によっては研修費の補助を行い学習への参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム交流会に参加し、情報交換や研修会をおこなっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より事前に訪問したり見学に来てもらうなどしたり、入居後も情報を元に深く関わり、表情などに気を配り入居者の事をより理解できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の苦労や不安を十分に聞く機会をもち、気持ちに寄り添えるよう努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話す機会を十分に設け、求めに応じ安心して暮らせる事を伝え、受け止める努力をしている。　必要があれば他のサービス事業所へ相談も行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、洗濯、調理、趣味活動など生活を共に過ごし、できるだけ寄り添えるように努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月々の行事予定をご案内したり日々の様子を写真と共にお伝えしたり、誕生日を一緒にお祝いしたり家族にも行事に参加してもらうなど家族とともに支援していけるようにしているが、新型コロナ感染対策のため、写真などでの実施報告が中心である。面会はガラス越しやリモートなど工夫して行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方の家族にも日々の活動の様子を写真つきで送付したり、面会に来ていただいた時はゆっくり過ごしていただくように配慮したり、積極的に訪問したりしていたが、新型コロナ感染対策のため実施できていない。遠方の方とは、オンラインで面会を行っている。又、家族との関係性が途切れないようには支援している。	感染対策で難しいところもあるが、自宅外出や面会を支援している。要望があれば、毎月のお便りをキーパーソン以外の家族、親族にも送るようにしている。同敷地内の他施設にいる知人との交流や家族の結婚式への参加を支援した。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士同じテーブルにしたり、作業や活動をテーブルを囲んで出来るよう支援し、孤立する方がいないよう支援しているが新型コロナ感染対策のため十分な実施できていない。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同じ敷地内の老健への入所の場合は面会に行き、積極的に訪問したりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での会話や行動、以前の生活歴より本人の思いを把握して、支援できるよう努力している。	入居者からは手作業や入浴の合間、話易い雰囲気の中で意向を汲み取るよう努めている。思いを伝えることが難しい方には、これまでの生活歴や生活の様子から職員で話し合い、意向を汲み取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に一人ひとりの生活史や生活歴を作成し、家族の面会時に尋ねたり、日々の会話を行う事でその時の様子をより詳しく知るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	初回は、計画作成者がアセスメントを行い、その後はカンファレンスなど通して、本人の状況を全体で把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なケアカンファレンス、担当者会議を行い、それぞれの意見をもとに介護計画を作成している。又、毎月、担当者よるモニタリングを行い、短期目標が切れる時には、計画作成者が総合的に評価を行っている。	介護計画は、日々の様子からホームの職員とケアマネージャーが意見を交換しながら作成されている。口頭または電話、郵便で家族への説明、意見、同意を求めている。介護記録でプランの振り返りを日々行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいた日々の記録が出来ており、ケアの実践、見直しに活かせている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他事業所へのレクリエーション参加、出張散髪の利用、自宅への外出などをおこなっているが新型コロナ感染対策のため実施できていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の祭りに行ったり、ホームのイベントに高校生やボランテイアに来てもらったりしていたが、新型コロナ感染対策のため実施できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの専門医への受診の継続や必要時は本人、家族の希望に添って適切な医療が受けられるよう配慮している。 月に2回訪問診療があり、医師との情報交換はできている。	主治医は母体の病院が担当しているが、それ以外のかかりつけ医も可能である。専門医の受診は以前は家族も付き添っていたが、感染対策のためホーム職員のみで対応している。また、オンラインも活用した受診も支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を常勤配置している。日常の身体的変化を相談し、看護師は主治医へと報告、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との情報交換を行い、家族とも相談しながら適切な期間で退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には、当事業所の重度化した場合における対応に係る指針及び看取りに関する指針を説明している。又、その都度、本人や家族、主治医と相談しながら方針を決め、共有し支援に取り組んでいる。	看取りの説明、同意を得て入居されているが、家族の要望で病院で対応されることが多い。看取りの経験のある職員もおり、経験の少ない職員への勉強会も開催されている。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	状態を把握し常に看護師とは連携を取り、報告は行っている。 定期な訓練が出来ていないため、今後勉強会の計画、実施が必要。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画に基づいた年6回の訓練なんとか実施出来ている。 火災訓練と風水害訓練は地元消防団・消防署の協力により、定期的に行っていたが、現在は、新型コロナ感染対策のため実施できていない。地震についても訓練が必要。	日中、夜間を想定した年6回の消防訓練がなされている。コロナ禍で開催が難しかった地域住民、消防団の参加する火災・風水害の総合防災訓練を今年から再開する予定がある。法人には防災担当職員もおり、指導を受け、ホーム内に落下物対策がなされている。適時、市の防災担当とも連絡を取り合っている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格を踏まえ、入浴や排泄の時などプライバシーに配慮して言葉かけする時は近くに行って話しかけるよう心がけている。 一人一人に沿った言葉かけや援助を行っている。	接遇の研修を行い、法人として適切なケアのあり方として取り組んでいる。声掛けの仕方、話すスピードなど職員同士で話し合い、共有し、入居者の気持ちを汲み取りやすい環境を作るよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その都度本人の思いや希望を尋ねたり、話しかけたりし本人の意思を表現できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時々の様子や希望に沿ってその日その日に合わせた支援ができるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人用の化粧品を準備したり、髪染めをしたり、おしゃれしてお出かけしたり、その人らしい生活ができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの能力に応じた食器拭きや片付けは行ってもらっているが、準備は行ってもらっていない。又、コロナ禍で、職員と一緒に食事はできていない。	季節を感じられるメニューやおやつを提供するようにしている。好みに応じたメニューの調整を行っている。入居者参加でのおやつ作りもあり、作業の難しい方にも雰囲気を楽しめるよう工夫している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士と連携を図りながら、一人ひとりの状態に合わせ食事量にこだわらず、補助食や嗜好品をあわせて提供することにより、必要なカロリーや水分量が摂取できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要に応じて、協力歯歯科医師にお願いし、定期的に口腔内の確認、往診を行ってもらっている。口腔内の状態に合わせて、歯ブラシやスポンジ、口腔ウエットティーを使って、毎食後口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、その人その人に合わせて支援することで、トイレで不安を与えることなく排泄でき、なるべくオムツを使用しないよう支援している。	排泄チェック表を活用し、トイレの失敗を減らすよう、またおむつ使用を減らすことが出来るよう支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を毎日チェックし、一人ひとりについて対応方法が決まっている。便秘傾向の方には水分摂取や運動を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望があれば対応したり体調に合わせて入浴する日を調整したりしている。 トイレの失敗などがあれば、その都度入浴してもらうなど必要に応じても入浴を行っている。	脱衣所や浴場は、エアコンでヒートショックを防ぐ工夫がなされている。入居者の体調や気分に合わせ、臨機応変に入浴のスケジュールを調整している。一人ひとりの入浴にはゆっくり楽しまれるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に合わせて眠りたい時に安心できる場所で休息できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬ノートを活用したり、服薬管理表や熱型表、情報用紙などに記載し、一人ひとりの薬の内容を理解し、準備や介助時に日付や名前を確認し、確実に服用できるようにし、症状の変化が観察できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花の手入れや家事に参加したり、趣味を活かしたり、好きなものを食べたり、天気の良い日は散歩や外出を行い楽しくすごせるように支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内を自由に散歩できたり、希望があれば家族と協力し自宅へ外出したり出来るようにしているが、新型コロナ感染対策のため自宅への外出は実施できていないが、1名の利用者の方、コロナ感染対策を講じながら、夫の供養と孫様の結婚式に参加出来た。	本人の要望を受け、敷地内の散歩を楽しまれるよう取り組んでいる。コロナ禍で難しくなった自宅外出や外食などを、今後再開する予定がある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に確認を行っているが、現在は自己管理される方はおられずスタッフで管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や贈り物が届くとお礼の電話をかけたり、家族へ手紙を出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や貼り絵を飾ったり写真を飾ったり、テレビの音やカーテンでの光の調整を行い心地よく過ごせるようにしている。	天井も高く、明るい共有空間は手作りの飾り付けがされ、落ち着いた雰囲気がある。テレビの音が高くならないようタブレットを使って個別に対応したり、職員の話し声の大きさも配慮するよう工夫されている。鉢植えの水やりを入居者が楽しめるよう支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに座ったり、気の合う方のテーブルへ自由に移動したり、促したりして落ち着いて過ごせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際や面会時に家族と相談し、なじみの家具を配置し、写真や手紙、その方の作品などを飾り、居心地良く過ごせるよう工夫している。	体調や動作、また移動用リフトの使用を考慮した家具・ベッドの配置がされている。要望があれば使い慣れた家具の持ち込みは可能である。家族からの要望で写真や飾り付けもされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや介助バーを設置しており安全に移乗や移動出来るように工夫し、トイレや浴室など分かりやすく表示したり、日時や時計を見やすい所に設置することで理解し行動しやすいように支援している。		